

きんもくせい

令和元年 学校教育だより

December **12** 第343号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線623)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



伝統を創る歌声 ～3年学年合唱「流浪の民」～

写真提供／水谷中学校

「冬の訪れ」

勝瀬中学校一年

鍵本 りた

登校する皆の息

白く浮かぶ雲のよう

途切れることなく続いている

私の呼吸は小さな雲になって

光に誘われ消えてゆく

私は姿をかえ鳥になって

大空へはばたき世界を

かけめぐる

そして深く息を吸って

鼓動を感じまた歩き出そう

寒い寒い冬のはじまり

私の夢の世界も

まだ始まったばかり

特別支援教育の推進

いよいよ来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックメディアでは、「五輪」や「オリンピック」ではなく、「オリンピック・パラリンピック」や「オリパラ」という言葉を使っていることに気付きます。東京オリンピック・パラリンピックの基本コンセプトの一つは、「多様性と調和」であり、「オリンピック」と「パラリンピック」を一体に捉え、障がいや性別、年齢などの多様性を受け入れて、積極的な社会参加を促す近年の価値観がこれらの言葉から伝わってきます。

学校教育でも、すべての学校において、障がいのある児童生徒の自立と社会参加に向けて、一人一人のニーズに応じた特別支援教育が推進されています。本校では、児童生徒が卒業後、自立し、社会で生きていく上で「人とかかわる力」が必要だと考え、昨年度から、学校研究として、「人とかかわる力」をはぐくむ授業づくりに取り組んでいます。今回は、その取組の中で、私が担当している小学部「遊びの指導」の授業について紹介します。

学校研究の取組

「人とかかわる力」をはぐくむためには、授業の中で人とかかわる経験を積み重ねることが大切だと考えています。そのために、三つの視点を意識して、授業づくりを行っています。①意欲：人とかかわる意欲を高める。②スキル：人とかかわるスキルを生かして取り組める学習活動を設定する。③関係性：友達や教員との豊かな関係性を築く。

この三つの視点で、教員同士が対話し、アイデアを出

自立と社会参加に向けた「人とかかわる力」をはぐくむ授業づくり

指導者 富士見特別支援学校 教諭 小澤 雄一

勝った人は、手や肩等のどこを採んで欲しいのかを決めて、相手に伝えます。自己選択・自己決定の要素も取り入れて行っています。

【風船バレー】

風船を落とさずに、何回レシーブできるかという遊びです。汗をかくほどみんなでき回り、熱中して遊んでいます。目標回数を設定すると、その回数をクリアするために、友達にコツを教えたり、レシーブしやすい場所に動いたりしています。また、目標回数をクリアするだけでなく、

みんなが風船に触れるように「次は、○○さんだよ！」「○○さん、お願い！」等の声をかけながら、遊んでいます。

【フラフープリレー】

手をつないで輪になり、手を離さずにフラフープを一周させるとい遊びです。くぐり抜けるために様々な体勢になったり、失敗したりすることもありですが、楽しく遊んでいます。目標タイムを設定すると、並ぶ順番やくぐり抜け方を考えて、取り組みます。目標タイムをクリアすると自然とみんな喜んで、「次

し合ったり、振り返りをして、授業づくりに取り組んでいます。

小学部「遊びの指導」

特別支援学校の小学部には、「遊びの指導」という授業があります。遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、児童と児童、児童と教員等との意欲的なかかわりを通して、人とかかわる力をはぐくみ、心身の発達を促していく教育活動です。この授業では、小学部を五つのグループに分けて、二人一人の実態に応じた授業を行っています。

「人とかかわる力」をはぐくむ授業づくり

私が担当している「遊びの指導」のグループでは、協力したり、声をかけたりしながら、楽しく遊ぶことをねらいとして授業を行っています。その中で行っている三つの遊びを紹介します。

【じゃんけん手もみんな】

授業の中の最初の遊びとして、心と体のウォーミングアップのために行っています。ペアでじゃんけんをして、負けた人が勝った人の手や肩等を十回揉むという遊びです。

は○秒に挑戦しよう！」と声をかけたりするなど、人とのかわりが生まれます。



このような遊びを通して、児童の意欲、スキル、関係性の向上を目指して、授業に取り組んでいます。

まとめ

本校では、今回紹介した小学部以外にも中学部・高等部で、「人とかかわる力」をはぐくむ授業づくりに取り組んでいます。一人一人の実態に応じた授業を行うには、工夫が必要で、そのため、教員同士が自己研鑽に励んだり、研修を通して学び合ったりし



指導講評

富士見特別支援学校 校長 川端 正則

一人一人の子どもたちが、地域社会の一員として豊かな生活を送るためには、たくさんの人とかわっていくことが必要です。

新しい特別支援学校学習指導要領においても卒業後の自立と社会参加に向けた教育の充実が示されました。これからも本校では、授業はもちろん全教育活動を通して、一人一人の子どもたちの人とかわる力、社会性や豊かな人間性をはぐくんでいきたいと思っています。

特別支援教育

龍神太鼓二〇一九

みずほ台小学校 齊藤 恵子

「さすが六年生、体が覚えてるね。」

太鼓の練習が始まると、子どもたちの記憶力の確かさに驚かされます。本校のけやき学級では、校内音楽会に向けて、今年度も「龍神太鼓」に取り組みました。

「龍神太鼓」は、三年前、たった二人の児童の挑戦から始まりました。基本のリズム十種類による、演奏でしたが、

今年度は、六年生四人、三年生二人の六人での演奏とな

りました。六年生は、リズムが安定し、体の動きも大きく、きれいのよい叩き方で三年生のよい手本となっています。六年生の動きを見て、三年生も大きき腕を振り上げ、力強く叩きます。今年度の音楽会は、六年生にとっては小学校最後の演奏になるので、練習には毎回気合いを入れて取り組み、一杯の演奏となりました。

こうした上級生の姿を見て、三年生も一生懸命に太鼓を叩きました。六年生の手のひらには、練習の証のメカができています。積み上げた力の確かさを子どもたちと共に実感しています。

地域の繋がり

諏訪小学校 保護者 横山 邦和

諏訪小学校区では毎年地域の皆さんの親睦と健康のために体育祭を行っています。今年で四十四回目となります。パン食い競争や綱引き、長縄跳びなど様々な競技を各町会対抗で行い子どもも大人も一緒になって競技を楽しみます。普段あまり接することのない近いようで遠い地域の方々と共に競技に参加し、共に汗を流すことで、その距離はグッと縮まったように感じます。



隣近所で協力し合い助け合えることができると思っています。私も保護者として、また地域の一員として様々な活動に積極的に参加し、地域と関わり合いをもつていきたいと思っています。

最近では、記録的な大雨や想定外の災害が全国で頻繁に起きています。いつ自分たちの街が災害に遭うか分かりません。そんなとき自分自身の身を守る「自助」が第一ですが、近所の人たちと協力しながら地域の安全を守る「共助」も必要です。



人間は完璧ではないことが当たり前です。助けを求めるところで「ダメな自分、弱い自分」を受け入れ、知ることのできるような親として、またよき理解者として接していければよいと思っております。私の願いは互いに成長し続けて欲しいということですが、そのために、これからも応援していきたいと思っています。



英語力向上を通して生きる力をはぐくむ

本郷中学校

本校では、グローバル社会において、生徒が自信をもって活躍できるよう英語力向上に力を入れています。三年前から特に力を入れているのが次の二つです。

〈英検受験者と合格者を増やす〉

具体的な取組みとして、①本校を準会場として登録し受験しやすくしました。②一次、二次試験前に英語科教員による講習会を実施しました。③合格者を朝会で表彰し、自

〈英語弁論大会で県大会出場を目指す〉

具体的な取組みとして、①早い時期から参加者を募り、夏休みも含め指導に当たりました。②AETと連携し、発音

リーダーシップとフオロワーシップ

勝瀬小学校

勝瀬小学校では、よりよい人間関係の育成と学年に応じたリーダーシップとフオロワーシップの育成を目的として、様々なたてわり活動を行っています。

毎年、五月上旬に全校遠足があります。六年生は年度初め、リーダーとしての責任がめばえ、低学年もみんな協力して仲良くしようとする姿が見られます。また、月二回の遊ぶデーや

学期に一回のたてわり給食・清掃があり、たてわり活動が充実しています。一緒に遊び、過ごす中で班でのまとまりを深めています。遊びや清掃を上級生が引っぱることで、リーダーとしての意識を高めるとともに、「あんな上級生になりたい」「頑張る上級生を支えたい」と思える下級生も増えていきます。他にも、たてわりでお店を運営する勝瀬っ子祭りや、六



年生を送る会などの行事を通して、あたたかい絆を深めています。

助け合え、求め合える力を

南畑小学校 保護者 上坪 伸行

皆さん、生きる力とは何だと思いませんか？私は最近思います。生きる力とは、「助け合える力・助けを求められる力」と。

私の息子は高校でアメリカンフットボールをしています。アメフトはチームスポーツですので、一人でプレーは成立しませんし、全員の気持ちの一つにならなければプレーは成立しません。チームは一人の為に、一人はチームの為に全力を尽くし

ている姿からも感じます。「助ける力・助けを求められる力」を。なぜなら人よりできないことが沢山あっても他の人が支え、助けてくれ、なにより自分を信用してくれる「仲間」がいることが素敵だと感じるからです。ときには挫折や誘惑で自分のもとより、仲間を信じられなくなるときもあると思います。ですがそんなときこそ周りの仲間に助けを求めてもよいと思います。

教育課題特集

生きる力をはぐくむ

～学校・家庭・地域から～

外国から来た子どもたちへの日本語支援

富士見日本語教室 竹澤 玲子

今、富士見市の学校には、たくさん外国から来た子どもたちがいます。富士見日本語教室は、学校で日本語が分からない子どもたちに日本語の学習を支援している団体です。日本語がまったく分からずに、知らない学校に行つて、椅子に座ってじっとしている子どもたちは、どんな気持ちなのだろうかと、自分に置き換える心が重くなります。しかし子どもの順応性はすごいもので、一年も経てばクラスに話せる友達ができたり、授業が分かってくるなどと、驚くばかりです。個人差もあつて、全員が、という訳にはいきませんが、それでもすごいなあと思っています。私達は支援をしています。実際は本人の努力によるものだと考えています。

教える方法や教材は支援者によつて様々ですが、一番覚えやすく使える言葉「わかる・わからない」「いる・いない」などを覚えると片言でもコミュニケーションがとれます。友達ができれば日本

語会話は上達します。それに悪い言葉はすぐ覚えるようです。日本語は文字の種類が多く、覚えることもたくさんあります。でも、だんだんできるようになり、保護者よりも日本語が上手になります。すると日本語が少ししか分からない保護者との間に差ができしまい、そこが問題になることもあります。これからはますます外国から来る子どもたちが増えると思いますが、楽しい学校生活を送れるようにと願っています。



指導に力を入れました。今年度の実績として、富士見市英語弁論大会は1位、2位、3位入賞を果たし、入間東部英語弁論大会は2位入賞、県大会出場を果たしました。今後にも更により結果を出せるよう指導に努めていきます。



人間尊重・私の主張

人権問題について

世界共通の「笑顔」



富士見台中学校
浜崎 マリーン

私は外国人に不利益な扱いをする人は好きではありません。なぜなら、自分もそのような扱いをされたことがあるからです。

私が小学校低学年のときに上級生に言われた言葉があります。それは、「え、お前外国人なの。やばー。」

という言葉です。今でもすごく印象に残っているし、そのときはとてもその言葉が心に刺さりました。その言葉を聞くまでは堂々と生きていましたし、全く恥ずかしい思いもありませんでした。その言葉を聞き、私はこう思いました。「外国人は普通ではないのか。恥ずかしいんだ。」と。

この言葉を言われてから、毎年行う始業式が怖く、恐ろしく、聞くだけで体が震えるほどでした。毎朝、担任の先生が呼ぶ、健康観察の自分の名前。初めて知る先生や、話したことのない友達に名前を呼ばれるのがとても怖いのです。それは「のびし棒」が名前に入っ



ているから。呼ばれると皆にジロジロ見られ、「なんて呼ばばいいかな。」「何でそんな名前なの。」など今でも毎年言われるぐらいです。私がハーフだからといって皆は英語が完璧だと勘違いし、英語に関しての質問、答えをすべて私に。全部が全部知っているわけでは無いのにプレッシャーをかけられることもありました。それで私は英語がいやになりました。そんなとき、助けてくれたのは母の言葉でした。「そんなことで悩まないで、分からないことあると言えればいいだけ。」

すごく簡単な言葉でしたが、私にはすごく心に響く言葉でした。これを聞いてから、心が軽くなったような感じがし、恥ずかしい気持ちはなくなりました。

ハーフだろうが外国人だろうが、同じ人間であり、同じ世界に住んでいます。世界共通しているのは英語だけではないと思います。世界全てに共通しているのは、「笑顔」だと思います。住んでいる環境が違っても、言葉が違っても「笑顔」で心が通じると思っています。

この世の中が外国の方にも優しく「笑顔」で仲よく接することができるようになって欲しいと、私は願っています。

《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「遊び半分で相手を傷つけるようなことはしてはいけません」と注意します。
- 私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。
- 私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。
- 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」と願います。
- 私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、いじめはだめだと訴え続けます。

《中学校宣言》

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。
- 私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。
- 私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよ。」と声をかけていきます。
- 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりちゃんと理解して、良くなかったら注意をしてください。」と願います。
- 私たちは、仲間を大切に、いじめを撲滅する努力をします。

富士見市 いじめのない学校へ子どもも宣言

人間尊重教育推進

わたしたちのまちに育てよう人間尊重の心

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」

「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」

「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」

と呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのです。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとりの子どもたちに確かな学力を身に付けさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されておりますので活用ください。

家庭、学校・行政が力を合わせ、一体となって子どもたちの健全な育成に努力していきましょう。

家庭における人間尊重教育十か条

- 一人のいのちを大切にし
いのちある動物、植物をいたわりましょう
- 健康を大切にし
正しい食事と適度な運動でからだづくりにつとめましょう
- おはよう、おやすみ、ただいま、おかえりのことばが聞こえる温かい家庭をつくりましょう
- ありがとう、ごくろうさまの素直なことばで感謝の心を育てましょう
- 家族の仕事を分担し
家族の一員としての役割をはたしましょう
- 人の喜びを喜びとし
人の心の痛みを分かちあい助けあつていきましょう
- やさしさ
いたわりの心を大切にし
おとしよりの方々に学びましょう
- どんな物も人の汗と力でできることを知り物を大切にすることを学びましょう
- 正しくやさしいことばでつづまれた
明るい家庭をつくりましょう
- 正しいことをつらぬく強い心で
勇気ある行動をとりましょう

人間尊重 わたしたちの合言葉

- いじめOFF やさしい心 いつもON
(南畑小学校 六年 鴻村 怜生)
- 子ども人権メッセージ 応募作品より
あの子の目 求めているのは あなたの手
(針ヶ谷小学校 五年 越阪部 咲音)
- 心がきずは なおらない
(勝瀬小学校 五年 奥村 凜太郎)
- 書き込みも 言葉も消える ことはない
(富士見台中学校 一年 熊野 榛香)
- 考えて 涙の理由 心(慎)重に
(本郷中学校 一年 田代 葵衣)
- 持ち物に 勇気と優しさ 忘れずに
(本郷中学校 一年 名畑 夏帆)
- 入間郡市同和対策協議会
入間地区人権教育推進協議会 応募作品より
「ありがとう」 かんしゃの気持ちは 宝物
(関沢小学校 五年 海老名 泰一)
- 大事にね 相手の気持ち 知る心
(つるせ台小学校 五年 佐藤 和奏)
- 「逃げないで」 あの子は あなたの助け 待っている
(東中学校 一年 安田 彩香)
- 悪口は いじめをつくる 種になる
(水谷中学校 一年 福本 和紀)
- (富士見市人権教育推進協議会 応募作品より)

教育委員会だより

富士見市高等学校等入学準備金 利子補給制度のご案内

この制度は、高校、専修学校、専門学校、短期大学及び大学等へ入学する方の保護者で、日本政策金融公庫の教育一般貸付（入学資金）を受けた方に対し、市がその返済利子の一部又は全部を助成し、経済的負担の軽減を図るものです。

◆申請

随時受付しています。ただし、入学後の申請は、利子補給金の一部が対象とならない場合がありますので、早めに申請してください。

◆利子補給対象者

- (1) 市内に住民登録のある方
- (2) 市税を滞納していない方
- (3) 日本政策金融公庫の教育一般貸付(入学資金)を受けている方

◆利子補給額

利子補給金の対象となる教育資金の融資額は、70万円を限度とします。利子補給金の額は、融資を受けた利率で、元利均等月賦償還、据置期間なしとして算出します。

◆利子補給期間

融資を受けた日の属する月の翌月から5年を限度とします。

◆利子補給に関する申込み・問合せ先

富士見市教育委員会 教育政策課(富士見市立中央図書館2階)
電話 049-251-2711 (内線611)

◆教育一般貸付に関する申込み・問合せ先

日本政策金融公庫
教育ローンコールセンター:0570-008656(ナビダイヤル)

<富士見市近くの店舗>

日本政策金融公庫 川越支店
住所 川越市脇田本町14番1 日本生命川越ビル5階
電話 049-246-4171 (申込み相談)

【例】

金利1.66%(令和元年11月7日現在)で70万円を借りた場合、約2万9千円助成されます。
(※諸条件によって、額は異なります)



クラスの横顔

澄み渡る青空に向かって、雄大にそびえ立つ桜の木。静かに四季の移ろいを見守る堅穴式住居。真新しい体育館に漂う静寂と木の香り――。

百花繚乱

針ヶ谷小学校 教諭 川畑 那由昂

四月。針ヶ谷小学校に着任した私と二十三人の一年が始まりました。担任をしている四年生の教室は二階にあり、ちようど窓の前には桜が大きく腕を広げています。美しく咲き誇った淡いピンクの花が散り、青く茂った葉が少しづつ色を変え、今ではすっかり見通しがよくなった窓の外では、今日も子どもたちの声が響いています。

一年の半分が過ぎ、子どもたちもずいぶん大きくなりました。ある日、じっくり話し合いをして、時間をかけて準備してきたレクが行われる予定の日に、一人欠席してしまいました。決行か、延期か。朝の会で子どもたちと話をしている、すぐさま「全員でやりたいです!」との意見が。だれ一人反対することも延期を残念がることもなく、「全

員」でやることへの思いが強く感じられ、私はその姿に胸を打たれました。「自分たちのクラスを、自分たちで成長させる」という言葉を、子どもたち自ら体現してくれたのです。冬。静かに春を待つ桜のように、その時を待つ次なる成長のつぼみ。残された時間の中で、たくさんの花が開くよう、私にできる全てを注いで子どもたちの成長を見届けたと思っています。



編集後記

今年も残すところ、あと十日ほどとなりました。学校の広場の木々もすっかり葉を落とし、冷たい冬の風が通り過ぎていきます。日本海に面した雪国で育った私は、この時期、学校帰りに、小さく白い綿のような雪虫が、ふわふわと飛んでいるのを見ることがあります。雪国では、この虫が飛ぶと雪が降ると言われています。「明日は雪だ。」冬の到来を感じながら、ふとそんなことを思い出しました。さて、十二月は「師走」と呼ばれます。この名の由来は諸説ありますが、お坊さんがあちこちの家を走り回り忙しかった月だからだそうです。今ではお坊さんの姿を見かけることは少なく、代わりにサンタクロースの姿が……。ところで、サンタクロースは本当にいるのでしょうか? 百年以上前のニューヨークで、八歳の女の子の質問に、ニューヨーク・サン新聞の記者が答えてくれました。この社説は「サンタクロースっているんでしょうか。」(偕成社) という本にまとめられています。サンタクロースの存在に心がわくわくする人もそうでない人も、冬の夜長の読書におすすめの一冊です。今年も、お世話になりました。(辻口)